



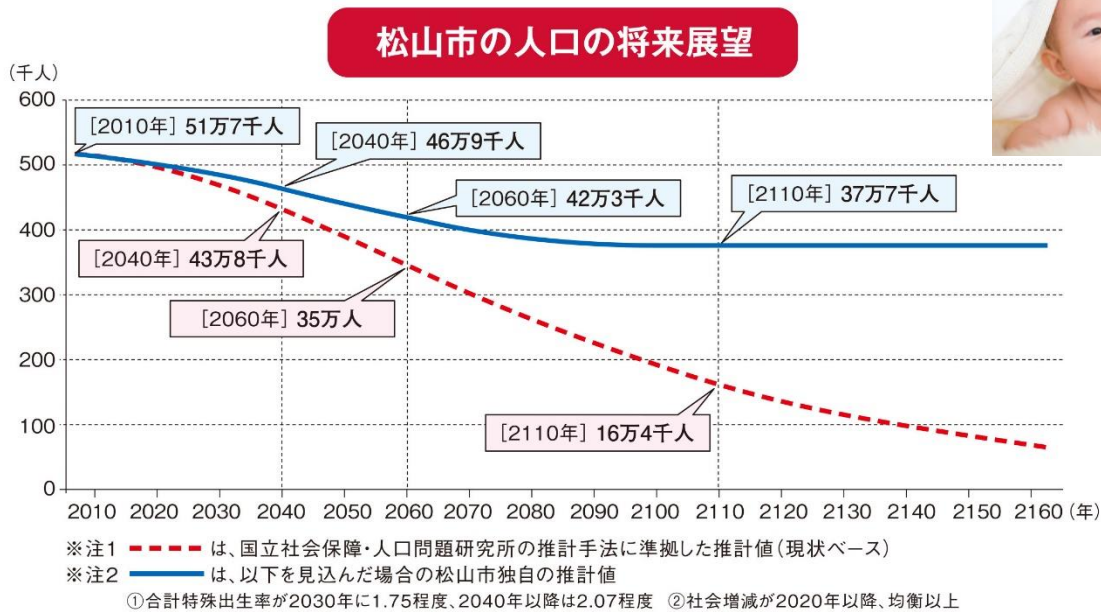
第2期松山市まち・ひと・しごと創生総合戦略 概要版

人口減少社会を迎え、生産年齢世代の減少による経済規模の縮小と高齢化率の上昇による社会保障費の負担増が懸念されています。

松山市でも2010年(平成22)年以降人口減少が始まっていることから、2016年(平成28)年1月に本市の目指すべき人口の将来展望等を「松山市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」とし、人口減少対策の基本的計画「松山市・まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、さまざま取り組んできました。

第1期の5年間で、本市の特色や実情に応じた取組を進めた結果、地方創生の意識や取組は根付いてきているものの、全国的な傾向と同様に本市でも出生数の減少は続き、東京一極集中にも歯止めがかかっていないなど、今もなお、多くの課題が残っています。

そのため、これまでの施策の検証結果と国・県の「総合戦略」に沿って、2020(令和2)年4月から5年間の基本目標や施策を掲げた「第2期松山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、地方創生のより一層の充実・強化に取り組んでいきます。



■基本目標

①つながる未来を応援する(少子化対策)

合計特殊出生率…1.40 (H30) →1.58 (R6)

②松山への定着と新しい人の流れをつくる(移住定住対策)

社会移動数…△74人 (H27-R1平均) →均衡以上 (R2-R6平均)

③魅力ある仕事と職場をつくる(地域経済活性化)

市内総生産…1.6兆円 (H28) →1.6兆円 (R4) 観光客推定消費額…788億円 (H30) →828億円 (R6)

④住み続けたいまちをつくる(持続可能なまちづくり)

中央商店街来街者…105,620人 (H30) →107,120人 (R6) 住み続けたい割合…86.0% (H30) →88.5% (R6)



基本目標

1 つながる未来を応援する

未来像

- ★若い世代が結婚・出産に大きな夢を持てる
- ★社会全体が妊娠・出産を全力で応援している
- ★家事・育児は分担するのが当たり前
- ★キャリアを断絶させないのが普通のすがた

基本的方向

- ☞ライフデザインを描き、晩婚晩産化に歯止めを
- ☞産まれることへの応援、相談・支援体制の充実
- ☞社会的風潮の変化を後押し
- ☞「働く」と「子育て」をつなぐ応援



- 政策1 ライフデザインの構築
- 政策2 ワーク・ライフ・バランスの実現
- 政策3 切れ目のない支援の充実

基本目標

2 松山への定着と 新しい人の流れをつくる

未来像

- ★松山のことをよく知り、ふるさとへの愛着が高い
- ★ライフイベント時に選ばれるまち・まつやま
- ★高校や大学と連携した取組による若者の定着

基本的方向

- ☞シビックプライドの向上
- ☞シティプロモーションの推進
- ☞関係人口の拡大と移住の促進
- ☞高校・大学の力を生かした地域活性化



- 政策1 定住の促進
- 政策2 移住の促進
- 政策3 大学等との連携・協働

基本目標

3 魅力ある仕事と職場をつくる

未来像

- ★若者が多彩な仕事の選択や創造ができる
- ★自分に合った、自分らしい働き方
- ★まちを歩けば国際色豊かに
- ★先進技術を生かした魅力ある農業を

基本的方向

- ☞スタートアップや創業への支援
- ☞多様な働き方への支援
- ☞インバウンドや体験型を含む戦略的な観光振興
- ☞農業関係人口の拡大や国内外への販路開拓



- 政策1 産業の競争力強化（業種横断）
- 政策2 産業の競争力強化（業種別）
- 政策3 雇用の創出と人材の育成・確保

基本目標

4 住み続けたいまちをつくる

未来像

- ★将来に向けて持続可能な社会を構築する
- ★生活の質と都市力を向上させる
- ★近隣地域と連携し、安全・安心なまちをつくる
- ★誰もが活躍できる地域社会をつくる

基本的方向

- ☞SDGs や Society5.0 など新しい時代の流れを力に
- ☞未来技術やデータを生かしたまちづくり
- ☞災害に強いまちづくりと連携の充実・深化
- ☞誰もが活躍できる市民主体のまちづくり



- 政策1 持続可能な社会構築
- 政策2 生活の質と都市力の向上
- 政策3 既存ストックのマネジメント強化
- 政策4 近隣地域との連携
- 政策5 防災の担い手を育成する環境確保
- 政策6 誰もが活躍できるふるさとづくり